

「週単元テスト」Q&A①

文責：教頭（前花 和秀）

Q1. 席次（学年順位）は出すのですか？

A1. 定期テストによる席次を出すことはなくなりますが、各種学力調査等の結果において学年順位が示されます。個票の配付や三者面談時の資料提供などで生徒・保護者に周知していきましょう。

また、7月・12月の三者面談前などに、それまでの週単元テストの各教科平均点数等を合計し、学年順位を参考資料として示すことも可能であると考えています。生徒・保護者の要望も確認しながら、方法について検討していきましょう。



Q2. 再テストの実施について

（積極的にいき、評価を上方修正するとあるが対象は希望者？下位層？不公平感は生まれない？）

A2. 文部科学省による「学習評価の在り方ハンドブック」には評価時期の工夫の例として右記のように示されています。

- 日々の授業の中では児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、各教科における「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価の記録については、原則として単元や題材などのまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行う。
- 学習指導要領に定められた各教科等の目標や内容の特質に照らして、複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価することを可能とする。

「学習評価の在り方ハンドブック」より

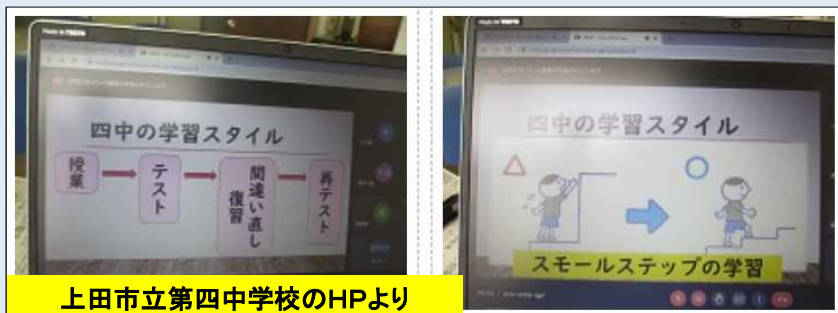
「それぞれの実現状況が把握できる段階」として、単元テスト1回のみで評価を出すことももちろん可能です。しかし、現行学習指導要領で大切にしていることは「生徒の資質・能力を育む」ことです。上記にある「長期的な視点」も踏まえて「生徒の資質・能力が育まれたか」を評価することは、子供達の「主体的な学ぶ姿勢」を育む上でも有効であると考えます。

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、**教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする**ためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。

「学習評価の在り方ハンドブック」より

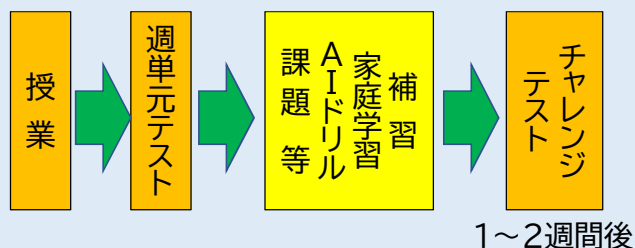
定期テストの廃止や学年担任制など全国的にも先進的な取組を進めている長野県上田市立第四中学校では、右記のように「チャレンジテスト」と呼ばれる再テストのシステムを導入しています。

※ただし、チャレンジテストは基本的に全員参加再テストを希望しない生徒は読書しているとのことなので、個人的には課題と捉えています。



上田市立第四中学校のHPより

ただし「長期的」とはいえ、再テストをいつまでも繰り返すことは、教師側の大きな負担であり、働き方改革の視点からも持続可能な取組とは言えません。単元テストの結果を受けて、補習や家庭学習・課題などで復習させたあとに、再テストにチャレンジさせるといった学習サイクルを設定することが有効であると考えます。以下に実践例を提案します。



チャレンジテスト設定のポイント

- ①受験は原則1回とする。
- ②単元テストの1~2週間後に設定する。
- ③週単元テストのある火・金の放課後に実施する。
- ④希望者全員が受験できるが、指定された課題等に取り組んでいることを条件とする。
- ⑤点数がアップした場合は単元テストの結果を書き換える。
- ⑥出題内容は単元テストとなるべく同じにはしない。
→ AIドリルなども活用して、負担が少ないように作問する。

上記は実践例です。教科会等でも話し合って持続可能な取組の検討をよろしくお願いいたします。